



Data

監督：マックG

出演：クリスチャン・ベイル/サム・ワーシントン/アントン・イェルチン/ムーン・ブラッドグッド/ブライス・ダラス・ハワード/ヘレナ・ボナム・カーター/ジェイダグ・レイス・ペリー/ローランド・キッキングー

👁️👁️ みどころ

アーノルド・シュワルツェネッガーの看板だった『ターミネーター』3部作が、クリスチャン・ベイルを主演に装いも新たに登場！「審判の日」を迎え、荒廃してしまった世界を、2018年の今支配するのは人工知能搭載のスーパーコンピューター<スカイネット>。生き残った人間たちの抵抗と、敵の本丸に迫る戦いとは？キーマンは、人間と機械のハイブリットであるマーカス・ライト。前3部作の理解の上に、新たな創作の世界と「これぞハリウッド！」というべきエンタメ世界を存分に楽しもう。



新シリーズが始動！

『ターミネーター』(84年)、『ターミネーター2』(91年)、『ターミネーター3』(03年)はアーノルド・シュワルツェネッガーの代表作(シリーズ)だが、私は『ターミネーター3』(『シネマルーム3』121頁参照)以外は映画館では観ておらず、テレビで何度か観ているだけ。アメリカは映画俳優だったロナルド・レーガンが第40代大統領になったりする国だから、シュワルツェネッガーがカリフォルニア州知事になっても別に悪くないが、ホントに彼は知事として務まっているの？日本ではかつて青島幸男や横山ノックなどのタレント知事がもてはやされたが、所詮「無能」だったことが明らかとなった。さて大阪府の橋下徹知事の能力は？

それはともかく、渥美清が死亡すれば『寅さん』シリーズが成り立たないように、シュワルツェネッガーがいなくなれば『ターミネーター』シリーズも終了。そう思うのが普通だが、『007』シリーズのように手を変え品を変えてジェームズ・ボンド役の俳優を変え

ていくのも1つのやり方。インターネットで調べると、本作の完成までにはシュワルツェネッガーの関与の有無はもちろん、製作者、監督、俳優の起用をめぐるさまざまな紆余曲折の末に本作が完成したらしい。そのうえ第5作の製作も発表されたから、本作は新3部作の序章になるとのことだ。

『ターミネーター1～3』ではシュワルツェネッガーがターミネーター役(T800、T850)を演じていたが、『ターミネーター4』の時代は2018年。核戦争で世界は荒廃し、今世界は人工知能搭載のスーパーコンピューター<スカイネット>が支配していた。そんな時代状況の中で生き残り、抵抗軍として<スカイネット>への戦いを挑む人々とは？

新シリーズの主演は？

『ターミネーター1～3』の主演シュワルツェネッガーに代わり、『ターミネーター4～6』の新3部作で主演ジョン・コナーを演ずる契約を交わしたのはクリスチャン・ベイル。彼は『ダークナイト』(08年)ではヒース・レジャー演ずるジョーカーに完全に喰われた感のある主演のブルース・ウェインを演じていたが(『シネマルーム21』25頁参照)、1年間365日眠っていないという主人公を演じた『マシニスト』(04年)では現実に体重を30kgもダイエットして薄気味悪い肉体で登場していた(『シネマルーム7』382頁参照)。その他にも私は『コレリ大尉のマンダリン』(01年)、『ニュー・ワールド』(05年)、『プレステージ』(06年)、『アトム・ノット・ゼア』(07年)でクリスチャン・ベイルを観ているが、その体格はシュワルツェネッガーにはかなわないまでも堂々たるもの。その上、クリスチャン・ベイル演ずる抵抗軍のリーダー、ジョン・コナーは人間味豊かな男だから、これからのシリーズの顔となる男としての魅力いっぱい。

もう1枚の看板は？

『ターミネーター4』でも主演のクリスチャン・ベイルを喰ってしまいそうな勢いを見せるのが、映画の冒頭にアップで登場するマーカス・ライトを演ずるサム・ワーシントン。死刑囚のマーカスは医学の研究のために献体することを女性医師のセリーナ・コーガン(ヘレナ・ボナム・カーター)から勧められていたが、ついに彼はセリーナ医師とのキスを交換にそれを承諾。さて、そんなマーカスは本作でどんな役割を？

本作は未来と過去が交錯する物語であるうえ、人類の敵は人工知能を搭載したスーパーコンピューター<スカイネット>という代物だから、話は難解。そんな映画について逐一ストーリーを紹介するのは愚の骨頂だからそれは書かないが、このマーカス・ライトが機械軍団と戦っているカイル・リース(アントン・イエリチン)とターミネーターの出現をいち早くキャッチする不思議な力を持った少女スター(ジェイダグレイス・ベリー)の前に登場するところから本格的な物語がスタートする。彼は自分の名前はわかっているよう

だが、今が何年でどんな時代状況になっているのか全然わかっていないらしい。ちなみに、このカイル・リースはジョン・コナーの父親になるべき人物。つまりジョン・コナーは、父親カイル・リースと母親サラ・コナーとの間に生まれた子供だ。それを体系的に理解するには、『ターミネーター1～3』をちゃんと観なければ・・・。

『ターミネーター4』のあつと驚く仕掛けは、このマーカス・ライトは脳と心臓だけが人間で、あとはすべて機械というハイブリッド仕様だということ。もっともそれが明らかになるのは、中盤から。ハイブリッド仕様が人間より強いのは当然だから、このマーカス・ライトは本作の中で大きな役割を果たす。したがって主役のジョン・コナーを演ずるクリスチャン・ベイルは『ダークナイト』の時のように主役の座をこのマーカス・ライトに取られないよう、よほど頑張らなければ・・・。

「審判の日」を北朝鮮の核実験と対比して

本作の試写会が実施された2009年5月25日、北朝鮮は地下核実験を実施すると共に3発の短距離ミサイルを日本海に発射し、さらに翌26日にも短距離ミサイル2発を発射した。これによって、いよいよ日本にも核の脅威が現実！？そんな早計な議論をする必要はないが、戦後60年余り日本を支配してきたノー天気な「平和論」にメスを入れていかなければならないのは当然だ。

そんな議論のために役立つのが、「百聞は一見に如かず」の諺どおり、本作が描く「審判の日」。『ターミネーター1～3』ではジョン・コナーとサラ・コナーそしてT-800ターミネーターは「審判の日」を阻止するために頑張ったが、結局防衛システムを掌握した<スカイネット>は米国のミサイルを発射することに。その結果、「審判の日」から14年後の2018年の今、世界はどんな惨状に？

これぞエンタメ！これぞハリウッド！

『ターミネーター』の旧3部作も、これから始まる新3部作も、その楽しみ方は2つある。

1つは、きっちりと登場人物のキャラとストーリーを把握しながら、物語全体を楽しむこと。

もう1つは、あまりややこしいことは考えず、ド派手なアクションや戦闘シーンと各種機械軍団（ターミネーター）の姿を楽しむこと。

『ターミネーター1～3』には、T-800型ターミネーター、T-1000型ターミネーター、T-X型ターミネーターなどが登場したが、『ターミネーター4』にはそれ以上にバラエティー豊かな各種ターミネーターが登場するから、それに注目！もっとも、これらのターミネーターはすべて<スカイネット>が生き残った人間どもを捕獲、抹殺するために活動しているものだから、ジョン・コナー、マーカス・ライト、カイル・リースらは

これらのマシンと戦いこれらを破壊しなければ生き残ることはできないことになる。荒野のパトロール任務に就いている旧式のT-600型ターミネーターだけでも強力なのに、その他 人間を捕獲するハーヴェスター、人間たちを追いかけ連れ戻すバイクのようなモトターミネーター、水中用ターミネーターであるハイドロロボット、などさまざまなマシンは圧巻。そして、<スカイネット>中枢部で最後に登場してくる新型のターミネーターとは？

もちろん、抵抗軍もヘリコプターをはじめとする各種の武器を持っているから、それらが活躍する戦闘シーンも圧巻！<スカイネット>中枢部に進入したジョンとマーカスは、果たしてその破壊に成功するのだろうか？もし、その破壊に成功すれば、そのために使う爆薬の量は一体How Many？

そんなつまらないことは考えず、本作についてはただただ頭の中をカラッポにして、「これぞエンタメ！これぞハリウッド！」を楽しめばいいのでは？

2009（平成21）年5月27日記

華東理工大学外国語学院で熱い対談を！

『取景中国 跟着电影去旅行（Shots of China）』の出版プロデューサーは在日中国人作家の毛丹青さん。そのアフターサービスは行き届いており、上海の華東理工大学外国語学院で私と毛氏との対談が実現した。

9月18日午前10時。階段教室に集まった学生は100名弱。教室の前から埋まっていくのは、07年10月10日北京電影学院で特別講義をした時と同じ中国流。『取景中国』が配布された学生たちは興味津々の目で私たちに。出版の意図・狙いを語った後、毛さんの話題提供の第1は変わり者。つまり、08年3月の出会いで互いに変わり者だと認識したことが今日の出版に繋がったというテーマだ。第2はバスの美人車掌がネット上話題となり大勢の客が押しか

けたため、車掌がダウンしたといういかにも中国的な話題。2人の対談は打合せなしのぶっつけ本番だからある意味きついが、逆にリアルで面白い。小学校の運動会の駆けっこで順位をつけるのは差別だからみんな仲良くゴールインしていることを身振り手振りを交えて話すと、学生たちからは一斉にオーという声。そんな「舌好調」な展開で90分の対談はあっという間に終わり、後はサイン会。後にも先にも順番を待つ約50名の学生へのサインなど初体験。

今後も次々とこんな企画を実現したいものだ。

2009（平成21）年11月5日記